

令和7年度 京田辺市産業振興ビジョン推進委員会 (第4回) 会議要旨

1 開会

2 会議の公開について

傍聴希望者なし

3 第2次京田辺市産業振興ビジョン(案)及びアクションプラン(案)について

(1) パブリックコメントの結果

【事務局】(資料説明)

【委員】パブリックコメントはどのような方法で意見募集したのか。今回は、意見が多いのか少ないのか。今後はもう少しパブリックコメントをふやしていただきたい。その上で、そういう訴求方法がよいのかをちょっとお聞かせいただきたい。

【事務局】実施場所は、住民センター、図書館などの市内公共施設、商工会やJA、そして市役所産業振興課で現物を見てもらえるようにしていた。また、市のホームページでもご覧いただけるようにしていた。なお、閲覧場所や方法については、市広報で周知していたところですが、件数が多いか少ないかについては何とも言えないが、内容によっては0件、多ければ100件以上のものもあり、本件についてはもう少し意見があってもよいのではと思った。

【委員長】なかなか難しい問題。パブリックコメントは市の規定に基づきながら、特定の場所で、幅広く意見を求めるということで実施されているが、なかなかそこまで行って意見を言おうという市民がいないというのは少し残念な気がしており、もう少し周知徹底をするという形は取っていかざるを得ないのではと感じる。市ホームページで閲覧できるが、なかなかそこまでのアクセスをしてもらえないというのは、委員会或い

は市を信頼して、任されているというふうにとってもいいのかもしれないが、市としては一応規定どおり行っている形になっているとご承知いただけたらと思う。

【委員】意見の中に、私ども観光協会が主催するライトアップと花見ウォークについてあり、それに対する考え方を市として答えているが、「なぜ無くなったか」というのは、観光協会の中で参加者の意見を集約する中で、理事会において議論されたという経過があり、この意見を受けてまた理事会においても協議される中身ではあると思うが、この考え方については市の考え方という認識をすればよいか。

【事務局】市としての考え方ではあるが、この産業振興ビジョンは、市だけではなく、観光協会やその他の機関も一緒に進めていくものであるため、観光消費の拡大は観光協会においても、以前から課題としては感じられていると思うので、前向きに考えていただけたらと考えている。

【委員】理事会等で十分に議論していきたい。おっしゃるように前向きには考えていきたいと思う。

(2) アクションプラン案（前期）における成果目標及び活動指標の設定について

(3) 産業振興ビジョンの進行管理について

【事務局】（資料説明）

【委員長】成果目標及び活動指標の考え方と、進行管理についての説明であった。京田辺は評価に非常に力を入れており、政策の受け手である事業者のところへ行き、成果が上がったかどうかの満足度等をヒアリングやアンケート調査をし、それも参考にしながら、市としての取組状況の評価をする。その評価を外部の有識者を中心にして、検証するという形でやっていくものである。それを市民へ出していくというように、政策主体、外部から眺め、それに基づいたものを推進委員会で検証するという段階に分けて、丁寧にチェックし、次の段階で見直しをするという形になっている。他市町では大体、内部評価或いは内部評価と外部評価で終わるのですが、丁寧に京田辺市ではやられているところが特徴ではないかと感じている。目標については、先ほど申し上げたように、数値目標はあるが、あくまでこれは参考にしながら、それからどれだけ「増加

させる」か、「維持する」か、或いは「減少させる」という目標に対して、実際にどうなったかという形で評価をしていくという形になっている。現状値については、書けるものと書けないものがあるが、それを踏まえた上で、構成しているというものになっている。

【委員】 検証、評価はどのようなタイミングで行われるのか。

【事務局】 検証については、内部評価を終えてからになるため、1年が終了し、7月前ぐらいに検証する場を設け、それを踏まえて推進委員会を開催し、評価の場を設定している。

【委員】 年度途中で見直すことはないのか。

【事務局】 まずは年度当初に掲げたことについて、年度終了まで実施し、効果を見極めた上で、その次の年度に反映させていくような形になる。

【委員】 評価の時期、推進委員会の開催時期が遅いのではないか。

【事務局】 9月頃にすることで次年度の予算に反映できるため、この時期に開催したいと考えている。

【委員長】 私の経験から言うと、他の地方自治体に比べて遅いということはないと思っている。6月ごろにならないと前年度の成果がなかなかわからないということもあり、京田辺は早い方だと思う。今のところその形で何年か回していますが、それによって特別な問題が起こるといようなことは起こっていないため、これでよいのではという気がしている。

【委員】 追加資料2は具体的にどのような修正か。

【事務局】 黄色で塗っているところが修正部分である。修正内容は、1年間の考え方が、古い方は「年度」になっていたところ、正確には1月～12月の暦年であったため、「年」に修正した。

【委員】 全体ビジョン「事業者・市民・行政の相互理解と強力のもと」が一番の肝だと思っており、我々のように審議していると理解できるが、市民は仕事もされていて、本当に協力してもらおうと思うと、こういったビジョンがしっかりと届かないとなかなか協力してもらえないと思っている。そこで聞きたいのだが、ビジョンができれば、どれぐらい印刷されてどの程度まで配布するのか。また、ビジョンができた後の周知の方法を考えているのであればお聞きしたい。

【事務局】 ビジョンは250部の印刷を考えている。委員、市議会議員への配布に加え、図書館、市役所の行政コーナーなどの公共施設へ配架する

のでそこで見てもらうことになる。また、市のホームページにも掲載することとしており、そちらをご覧くださいことになる。

【委員】 前回並みということかと思うが、ある程度、関係機関の役員の手に届く程度にはできる範囲でお願いしたいと思う。市のLINEも目に付くので、プッシュ型の通知でやってもらった方が、市民としては分かりやすいのではないかと。そういった工夫もやっていただければと思っている。

【委員長】 事務局と話していて、産業ビジョンという形で京田辺の主体性があるかどうかという点で見た場合、農業関係などはほとんどが国の補助金である。補助金がどれだけ京田辺の中で満遍なく行き渡ったかというのが、ある意味では成果のような形になっている。そうするとこのビジョンによって利害関係が生じるのはそれぞれの利害関係者で、市民はどちらかという間接的な影響を受けていくことになり、先ほどのパブリックコメントでもそうだが、なかなか関心が及ばないです。それだけに関心を高めるといことは必要だろうと思います。しかし、基本的にはまず関係者に対してこういう補助金がありますよということの周知から始めていかなければという気がしている。そういう特殊事情があるということだけのご承知を願いたい。それでもやはり、市民主体の市民参加型の事業は作りたい。音頭取りを商工会或いは商業関係者が連携をしてやっていこうというような盛り上げができれば一番越したことはないと思うが、これはあくまでも私の意見で、市の意見ではない。

【委員】 資料4の最後のページについて、「歩いてめぐる観光ルートの周遊観光による市内店舗の利用促進」とあるが、周遊観光の開発は誰がするのか。また、観光資源は点在しているので、歩ける距離ではないのではないかと。

【事務局】 本市は、観光協会と旅行会社の3者で包括連携協定を結んでいる。そのことから、「歩いてめぐる」については、来年度、旅行会社の知恵も借りながらいくつかの観光資源をめぐるルートを作ることにしている。

【委員】 気安く歩ける距離ではないのではないかと。

【事務局】 ハイキングを兼ねて来られる方が多いので、メインはハイキングコースのようになるのではと考えている。

【委員】 お土産を買う場所がないとか、休む場所がないという意見もある。

【委員長】観光地図のようなパンフレットはあるが、点としての観光地が書かれており、その点と点をつなぐルート在市では考えているのではと思う。

【事務局】すでに観光のモデルルートがあるが、単に歩いて終わるルートになっている。お店も紹介しながら、めぐってもらえるルートを作りたいと考えている。

【委員】JRと連携すると参加者が増えると聞いたことがある。

【事務局】それはボランティアガイド協会のイベントとしてのツアーのことだと思うが、我々が考えているのは個人で来られた方がめぐっていただくルートを作りたいと思っている。

【委員】タナクロについて聞きたい。イベント以外でタナクロを日常的に訪れる人はどれぐらいいるのか。

【委員長】タナクロそのものは農福連携事業である。つまり農業と福祉の関連の施策で、「市民に対して」という形はある意味では施策の中に入っているのだが、京田辺は無理に無理を重ねて、何とか市民に開放された形の農業空間を作っていこうという形で展開しているので、市民開放という形のためのものではなくて、むしろ身障者の職探しを含めながらというのが基本的な補助金の出方になっている。

【委員】パブリックコメントについて、やらなければならないというのはわかるが、どの程度の資料を出したのか。全て読まなくてはかけないのであれば面倒になり、要約ではどういう内容かがわからない。どうすれば市民の意見を聞けるかをもう少し考えた方がよいのではないか。

【委員長】環境の委員会では市民会議を作り、市民の意見を聴取している。こういう産業ビジョンでも市民の意見も吸い上げる工夫が必要かもしれない。環境のほうでは9つの市民提言を受け、随分市民の意見が入った形になっている。もし効果があるのであれば、そういった取り組みも参考にすれば良いと思う。

【事務局】今回お示ししたものを委員会からの新ビジョンの案として市に報告し、市として策定した上で、4月から新ビジョンを運用していきたいと考えている。

4 閉会